

学校教育 目標	共に生き、共に学び、共に汗する 心豊かな津留っ子の育成
育成を目指す 資質・能力	自立:基礎的な学力に基づく自己決定力 共生:対話力 向上:問題発見・解決力

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【大分県学力定着状況調査】 ・国語・理科では、正答率は全体・知識・活用のいずれも県平均を上回り、目標値を大きく超えていることから、多数は目標値をクリアしていると言える。 ・算数では、正答率は、全体・知識・活用のいずれも目標値を大きく超えていて、県平均とほぼ同レベルである。 ・国語・算数では、「根拠をもとに自分の考えをもち、相手に伝えるように構成を考えて書いたり伝えたりする」ことに課題が見られる。 ・理科では、学習事項と日常生活で目にする事象を結び付けて考えることに支援が必要である。 【全国学力・学習状況調査】 ・国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で、全国及び県の数値を上回っている。一方で、「読むこと」の領域では全国及び県の数値を下回っている。 ・算数では、観点別正答率では、「知識・技能」が全国の数値を上回っている。一方で、「思考・判断・表現」の正答率が低い。記述式における正答率が低く、無回答率も高くなっている。 ・理科では、「地球」を柱とする領域に於いて、ほとんどの項目が全国及び県の数値を上回っている。一方で、「生命」を柱とする領域に於いて、正答率が全国及び県の平均値を下回っている。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 【国語】 ・自分の考えの主旨や根拠になるものをノートやワークシートにメモし、それをもとに「内容が伝わる構成を考えて文章を書く」指導を行う。 ・説明文の学習では、複数の情報を統合して読み解く力の育成のため、構造的な板書で視覚的に文章全体の構成を捉えさせたり、文章全体と図表を行き来して捉えさせたりすることで、読み取りの基盤を作る。 【算数】 ・既習事項を提示することで、「どの場面でどの考え方を使ったらよいか」考える思考の方向を示すようにする。 ・児童の見方・考え方を、対話によって全体に共有するとともに、「課題解決の軸となった考え方のよさ」を意識した振り返りを定着させる。 【理科】 ・日常生活で目にする事象と学習事項とを関連付けて捉えさせ、学んだことを生活に生かすなど学びの有効性を図る指導の充実が必要である。 ・課題を解決するプロセスを習得するために、「質問を理解する」⇒「既習事項や生活経験を基に予想する」⇒「解決の方法を発想する」⇒「考察する」を繰り返し徹底していく必要がある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・1学期末児童アンケートで、「授業がよく分かる」92%、「ペア・グループトークまたは全体的場で、自分の考えを伝えることができた」86%、「友だちと自分の考えを比べながら聞くことができた」90%、「宿題を忘れずにすることができる」93%であった。 ・1学期末教員アンケートで、「対話による学び合い活動の実施」93%、「こどもの思考の流れが分かる板書」93%、「話型を活用した話合いの推進」87%であった。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 児童が主体的に取組、考えを深め広げるためには、問題意識をもたせる発問、思考の視点を明確にした対話、思考を促すための手立てが重要であることを確認し、道徳教育の校内研修に取組、研究を深めてきた。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 「基礎をしっかり身に付けるこどもの育成」、「伝え合い、認め合うこどもの育成」、「自分を磨き続けるこどもの育成」を目指し、学習規律の徹底を図りながら、「生徒指導の3機能」を踏まえた授業改善に組織的に取り組むとともに、朝の活動の時間「ぐんぐんタイム」や給食準備時間の活用など、隙間時間を使った基礎・基本の定着に努めることができた。	

学力に関する達成指標
○単元末テストで60点の未達成率が3%以下 ○「ペアやグループで自分の考えを説明することができた」「友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができた」児童80%以上

今後の 具体的 な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善のテーマ) 自分の考えを広げ、深める道徳授業づくり～発問とファシリテーションの工夫を通して～ (授業改善の重点) ・ねらいに応じた発問や揺さぶり ・効果的な対話の設定 ・板書や思考ツールの工夫	
	〈取組内容〉 ・主題やねらいに応じた、問題意識をもたせる発問や揺さぶりを設定する。 ・思考の視点を明確にした対話を設定する。 ・思考を促すための板書や思考ツールを効果的に行う。	〈家庭・地域の取組内容〉 ・「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の徹底
	〈取組指標〉 ・問題意識をもたせる発問や揺さぶりの設定が、児童が自己の考えを広げたり、深めたりすることに繋がったか。 ・思考の視点を明確にした対話の設定が、児童が自己の考えを広げたり、深めたりすることに繋がったか。 ・効果的な板書や思考ツールが、児童の思考を促すことに繋がったか。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・毎日宿題をやり遂げたかを確認する ・毎日こどもの音読を聞く
	〈検証指標〉 ○単元末テストで60点の未達成率が3%以下 ○「ペアやグループで自分の考えを説明することができた」「友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができた」児童80%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 ○「宿題を忘れずにできた」と回答する児童の割合が90%以上 ○「こどもは家庭学習の習慣が付いている」と回答する割合が90%以上
【授業改善以外の学力向上の取組】 ○各学年部における共通理解事項を組織的な授業改善の視点から、知育部会で検証・改善する。(短期PDCAサイクル) ○互見授業及びレベルアップ講座を開催し、授業力を高め合う。 ○1時間の振り返りを行い、学び残しを明確にした上で授業の補充や個別指導を行い、中間層の底上げを行う。 ○朝の活動の時間「ぐんぐんタイム」や隙間時間を使い、学習内容の定着を図る。		